PLAYERs
国際協力の担い手たち

ITで教育現場を支える道へ

「インターネットを使って教育を変える時代が来ることを見据えて、〝どこでも、誰でも、一人でも〟運用できるeラーニングシステムを開発しようと思ったんです」

宮崎県宮崎市の高校で英語教員を務めていた荻野次信（つぐのぶ）さんが株式会社教育情報サービス（KJS）を設立したのは2008年のこと。現在は同社代表取締役として、eラーニングのソフトウェア開発、それを活用した教育支援と海外展開の3つの事業を手掛けている。

さまざまな人が多様な学習ニーズを持っている今、講義の担い手が増えれば、その分、学習者の需要に即した教育を届けられるはず――そう考えた荻野さんが開発したのが、「ThinkBoard（シンクボード）」だ。「ThinkBoard は、動画コンテンツを簡単に制作できるソフトウェアです。パソコン上の画像資料に、音声と手書きメモを記録できるので、まるですぐそばで先生が黒板に書き込みながら解説しているような動画コンテンツを作ることができます」と荻野さん。制作に当たって専門知識を必要とせず、時間もかからない上、出来上がる動画の容量は超軽量なので、メールなどで手軽に配信できる。

同社はJICAの中小企業海外展開支援事業を通じ、2014年からバングラデシュで ThinkBoard を使った情報通信技術（ICT）人材の育成に取り組んでいる。その経験を生かし、昨年5月からは同じくJICAの支援を受けて、ケニアの高等教育の課題解決に向けた調査に乗り出した。

荻野さんとマイタイさん。長期的には、初等・中等教育機関でもThinkBoardを活用した動画コンテンツの導入を目指す考えだ

株式会社 教育情報サービス

教室の臨場感をどこでも

宮崎県に教育分野のソフトウェア開発事業を手掛ける企業がある。
元教員でもあるこの企業の創業者は、
日本留学の経験を持つケニアの青年実業家とタッグを組み、
同国の教育分野の課題解決に取り組んでいる。

ThinkBoardで制作する動画の特徴

出会いがくれた恩返しの機会

ケニアは2008年に定めた長期国家計画の中で、2030年の中所得国入りを目標として掲げた。その達成に向けて人材育成を強化しようと、国立大学を新設して高等教育の充実を図っているが、教員の確保が追い付かず、教育の質の低下が深刻だ。そうした中、KJSは首都ナイロビのジョモ・ケニヤッタ農工大学と連携し、ThinkBoardを使って、この問題を解決する糸口を探っている。

「対象としたのは、同国を含む東アフリカの大学で必須科目となっているHIV／エイズについての授業です。ThinkBoard を使ってHIVの仕組みやその感染についての動画を制作し、1年生60人に配信しました」と荻野さん。これならば、教員の数が限られていても、学生は教室に近い環境で授業を受けることができる。

学生に動画を届けるまでには、現地の通信環境の調査をしたり、授業を担当している教員たちに協力を呼び掛け、ThinkBoard を使って音声や手書きメモ入りの動画制作を行ったり、さまざまな準備が必要だった。そこで活躍したのが、現地IT企業の社長であるマイタイ・クリストファー・ムトゥマさんだ。

マイタイさんは2014年に、政府開発援助（ODA）を通じてアフリカの若者に日本の大学院留学とインターンシップの機会を提供する〝ABEイニシアティブ〟の留学生として来日。宮崎大学大学院工学研究科で学んでいた当時、学内で偶然荻野さんに出会ったという。それがきっかけとなり、KJSで約3週間のインターンシップを経験し、ThinkBoard を使った動画制作などを学んだ。そんな彼とタッグを組んだからこそ、ケニアの教員への指導や大学側との協議など、活動を円滑に進めることができていると荻野さんは語る。

「動画で学習するのは初めてだったけれど、勉強しやすかった」「他の教科でも動画配信をしてほしい」など、現地の教員たちが制作した動画コンテンツは、学生たちから好評だ。今回の調査期間中、ケニア大統領選挙や教員ストライキが重なり、大学で授業が行われない時期があったことも、ThinkBoardを活用した遠隔教育の恩恵を実感してもらえる一因となった。こうした期間中、マイタイさんは携帯電話で学生たちと密に連絡を取るなど、細やかな立ち回りで活動を支えたという。

「荻野さんをはじめ、日本の方々とこの活動ができることをうれしく、また光栄に思っています」とマイタイさん。KJSの試みは、彼の留学先での出会いが生んだ事業だが、実は荻野さんがケニアを訪れたのは今回が初めてではない。「38年前、教授の手違いで大学2年次を留年することになった私は、期せずして1年間の自由な時間を得て、〝日本人があまり行かない英語圏〟を目指してケニアに渡ったんです。初めてナイロビを訪れたとき、私の故郷である宮崎市よりもはるかに大都会だと感じたことを覚えています。」と荻野さん。特別な滞在目的は持たないまま、現地社会の居心地の良さと明るい人々に魅せられて、半年間を同国で過ごしたという。

卒業後は開発途上国で教育に携わることに憧れつつ、日本で教員になった。それでも思いは断ち切れず、起業の道を選んだ。「今、やっとケニアへの恩返しの道筋ができたのは、マイタイさんとの出会いのおかげです。ITを駆使した活動とはいえ、その成果は〝人〟による心のこもった活動が結ぶものだと実感しています」

動画による遠隔授業を受けた学生たちと。荻野さんは「38年ぶりのケニアは、変わらず躍動感にあふれています」と話す

ThinkBoardの説明に耳を傾けるジョモ・ケニヤッタ農工大学の学長と副学長。KJSと同大学は、今後、動画コンテンツの共同開発などを行う予定だ

ThinkBoardでの動画コンテンツ制作を指導。動画は、視聴する人がどのポイントで早送りや巻き戻しなどをしたか、グラフ化できる。“学習の質”を可視化できる画期的な仕組みだ